

第 7 回オンライン飲み会報告 & 次回お知らせ

去る 1 月 15 日に第 7 回オンライン飲み会を行いました。テーマは「新年の抱負」でした。参加者は 8 名ほどでした。この日は私、遅れての参加で 22 時から参加したんですが、その時点で残っていた人たちは 4 人ほどでした。そして改めて抱負を聞くと、「健康」と皆口を揃えて言いました。うん。まあ確かに。健康は大事。歳をとる毎にそれは思う。健康であれば何があってもなんとかなりそう。それはそう。そうなんだけど、そういうのが聞きたかったわけじゃないんだ！！なんか色々あるはず。各々目標とか今年こそは〇〇をやり遂げるとか、そういうの！！そういうのがあるはずー。と思って、私が言い出したんですが、如何せん「健康」でした。いや、大事よ！！健康は大事。自分の身体に気を遣って、健康を維持しながら過ごす事はすごく大事！！そしてそれはすごい難しい事だとも思う。というわけで皆さん、2021 年は健康に過ごしていきましょう、お互いに。

あと話題に上がったのが、「阪神淡路大震災」です。1995 年 1 月 17 日に発生した地震で、マグニチュードは 7.3 でした。日も近いことがあり、災害の恐さであったり、この震災でどれだけの人や物が犠牲になったのかなどを思い出して話したりしていました。その当時としては大きな災害で、これを機に、建物であったり物の規格であったりが色々見直されたほどでした。当然のことながら忘れてはいけない日本で起きた災害の 1 つなので、思い出したり振り返ったりする良い機会だったと思います。

とそんなことを話しながら、24 時頃に終了となりました。こんなゆるゆるな企画ですが、まだまだ続きそうです。皆さんのご参加をお待ちしております。

では、第 9 回の日程は下記に。

日時 3 月 19 日 (金) 19 時 30 分～終わるまで

テーマ 未定 (第 8 回にて決まり次第、夢宙人ブログにてお知らせします。)

アドレス

<https://zoom.us/j/95050419103?pwd=Rmg1SEtIK1J2U3JTTlJBTjRFZno1UT09>

ミーティング ID: 950 5041 9103

パスコード: 20210319

※今回もパスコードが設けられています。ID を入力後パスコードの入力もお願いします。

大コメ騒動を観て

中村かおる

先日『大コメ騒動』を観てきました。この映画は私の生まれ故郷の富山県魚津市が舞台になっているので、絶対に観ておこうと思っていたので観に行く事ができ良かったです。

映画のあらすじは大正中頃に、工業労働者や都市住民が増加した事や、第一次世界大戦でシベリア出兵にお米を優先的に安く売買されていたせいで、お米の値が徐々に吊り上がり庶民が買える価格ではなくなっています。

魚津の海岸に住むお母さん達は、毎日値の上がる米に苦しみ、旦那さんや育ち盛りの子供達に米を食べさせたくても高く買えない、「自分達が重い米俵を運び懸命に働いても、その米を買えないのは理不尽だ！」そう思ったお母さん達は、近くの米屋に米を安く売ってくれと嘆願に行くが失敗するのです。その上お母さん達のリーダー的な存在の婆さんが逮捕されてしまうと、米の価格はますます高くなり、全然お米が買えなくなっていったのです。そんな日々の中ある事故をきっかけに我慢の限界に達したお母さん達はついに大行動に出たのです。

そのお母さん達の大行動が日本中の庶民を世の中を動かし政府を動かし、お米の価格が下がり、やっとまともにお米を食べられるようになったという映画でした。

私はこの映画を観て「何だか障害者運動と一緒にだな。」と思いました。

この映画のお母さん達は、「ご飯をお腹いっぱい家族に食べさせたい！お金持ちも軍人も貧乏人も同じ人間なのに、お金持ちと軍人だけがお腹いっぱいご飯を食べられるのは理不尽すぎる！」と、魚津浜のお母さん達は奮起し米騒動をやって世の中を変えました。

私達障害者の諸先輩方も「身体が動かないというだけで、障害者というだけで施設に収容されているのは理不尽だ！バスに乗車拒否されるのは不当だ！」と沢山の運動(活動)をして、現在のような少しは障害者にも住みやすい世の中になっているのだと思っています。

私も「社会の理不尽な事や差別的な事や、直してほしい事があれば、小さな事からでも社会に向けて、声を出していかないといけないなあ。」とこの映画を観てあらためてそう思いました。

車いす・多目的トイレについて思う事

河上千鶴子

さて、今年の冬は、大雪に見舞われて、10日ほど外出も出来ませんでした。買い物と個人病院に行く事で、1月半ばに、いつも行っている古くからあるショッピングセンターに行きました。そこには、私の気に入っている洋服店が入っています。それで、年末に行った時に、障害者用トイレの前に「只今故障中。大変ご迷惑をおかけしています」という貼り紙がしてあったのです。二回目に行った時も直っていなかったもので、案内の所に行き、他の所に車いすでも入れる所はないのか？いつ頃直るのか、を尋ねました。そしたら、係の人を呼んで、説明されました。「車いす用トイレは他にはない。女性用トイレは少し広いが車いすでは入れないと思います。トイレの壁を壊さないといけないので、業者に早くして欲しいと言っているのですが、」という事でした。

「早く直してもらわないと、ゆっくり買い物も出来ないので困るから、早く直してください。よろしくお願いします。」と言って来ましたが、ついでの前も行きましたが、まだ、直っていませんでした。

確か、30年以上前に建てられた古い建物で、各階にはなくて、一カ所だけあるのです。

しかし、今は時代が変わって、ハードビル法が出来て不特定多数の人が出入りする所は、多目的トイレやエレベーターを付けないといけなくなっています。

だから、私は、昔よりは出かける時に、トイレの事を気にせずに行けるようになりました。しかし、まだまだ新しくできた個人病院や改装したドラッグストアなどには、車いす用トイレがありませんね。私が通っている内科クリニックも比較的新しい個人病院ですが、やはり、ありません。

私の場合は、少しなら手を引いてもらえば、歩けるので、車いすを降りてトイレに入りますが、介助者と二人で入るのがギリギリです。個人病院でもドラッグストアでも不特定多数の人が来るのに、これからの時代は、バリアフリー化が進められていくはずで、障害者だけではなく、高齢者が多くなり、車いす使用者が増えると思うのにどうして法律は、大型商業

施設や不特定多数の人が出入りする所と決めるのでしょうか？

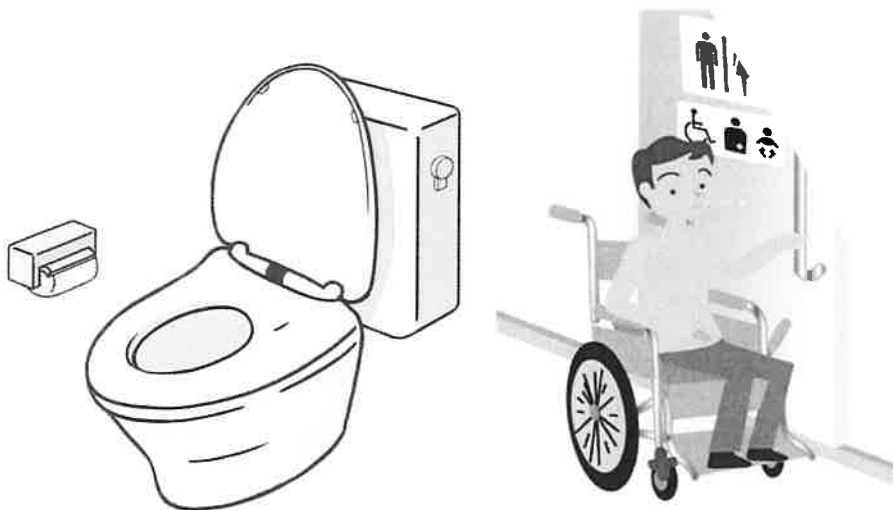
建てる時に、個人病院やドラッグストア、ファミレスなら多目的トイレを作るという計画を出したら、補助金がもらえるとか、改造したら半額出すとかという制度を作っても良いと思うのです。

ただ、建てた後から、改めてトイレを作るというのは場所的にも、結構費用もかかることなので、大変な事だと思っていますが、これからの事を考えて行って欲しいです。

これは良くあることですが、玄関の入り口には、スロープは付いているようになりました。こんな事も友達から聞きました。「せっかくトイレがあっても商品が陳列してあって、入れない」と、また、こちらがトイレをしなくなっていくと、空いていなくて、他の所があれば、行くのですが、無い時は、そこで結構長い時間待っていたこともあるのです。

そんな時に、出てきた人が、別に車いす使用者でも高齢者でもなくて、子供連れでもない人だったら、我慢して待っているのにといい、つい、ムカッとしてしまいます。

これは、私が、日頃思っていることを書きました。



「まっち」の原稿大募集

個人史・社会問題・そして人と人を結ぶ事を目指し発行している「まっち」
です。次号のテーマは、「ストレス解消」です。

ストレス社会の現代に、貴方が生きがいを見出すためにしている事は何ですか？

このコロナ禍で新たに見つけた、ストレス解消法やストレス発散にしている事は何ですか？

また貴方の心を浄化している何かについて書いて欲しいと思っています。

皆様からの原稿 「ストレス解消」 を大々募集しております。

もちろんテーマ以外の原稿も大歓迎です。

次号の締め切り日は 2021 年 3 月末日です。

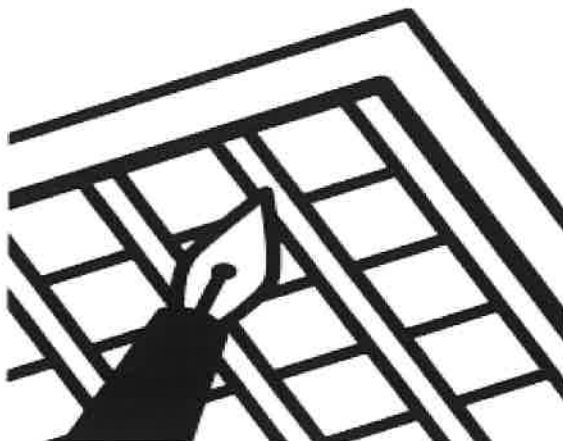
郵送される方は、〒930-0887 富山県富山市五福 3 7 3 4 番地の 3

「まっち」編集係り まで

メールでお送り頂ける方は macchitti@gmail.com まで

よろしくお願いします。お待ちしております。

文責 荒戸



富山大学での私の講義の内容

八木勝自

私、NPO法人文福の理事長をしている八木は、富山大学にて共通教育学にて担当教官の林衛先生のもと「教育と障害者」というテーマで学生20数名に、昨年1月8日と1月22日の2回にわけて講義を行ってきました。

この日は相模原市の障害者大量殺傷事件の植松被告の初公判の日でそのこともあって北日本放送のカメラやニュースキャスターの武道さんも来ていて、私の講義の風景や学生のインタビューをしていきました。この後の文章は少しわかりにくいところがありますが、説明を加えてどんな講義をしたかの内容です。この講義内容を「障」ちゃんニュースに何回かにわけて連載します。

講義1日目（1月8日）

まず、担当教官林先生から資料の説明

林先生）「私は私たちが生きるための協力者になってください」の八木さんからの自己紹介の文章と文福のビラの生きるのに理由はあるのか。それから、植松被告が衆議院議長に当てた手紙の全文の資料です。その裏には八木さんが植松に当てた手紙とそれと8月8日のものが八木さんが送った手紙とほぼ同じ内容の文章が背景植松被告さまへというものです。その裏にはNPO法人文福で11月6日、合同追悼式についての文章があります。

その横には七福神のイラストもあります。それからですね、障ちゃんニュースというNPO法人文福で発行している機関誌の縮尺版を私、八木さんの資料として作りました。2019年9月1日発行の244号で、ここでは植松被告からの手紙が届いたという報告があり、それに対する文福の仲間の河上千鶴子さんの感想の文章。

245号これは接見に行ってきたという、確認ですね。ということで、（ニュースキャスターの紹介なども入って）

八木) 時間もなくなっただけですけど、私の講義をやります。

私、林先生と打ち合わせがうまくいなくてテーマを間違えていました。林先生から聞いていたのは教育と障害者。しかし今は、私はそれを混ぜながらやります。まず、今日のテーマは植松被告の事です。みなさんもこの事件は知っていると思うけど、今から三年前にもう4年前か。2016年7月26日にここに書いてあるとおり、元障害者施設職員である植松によって障害者が26名か16名も殺傷された。刃物で一人一人重度障害者を殺傷したんです。ものすごい悲惨な事件です。けれど私は最初はネットでこれを知りました。一報はヤフーのニュースで。その時私なにを思ったかと言ったら、なんで今更、障害者が殺されなければいけないのか。私の予想ではこういった事件は、高齢者の施設で起こると思っていました。昔は障害者が家族などに殺された事件が多かった。今もそんな事件はあるけども、高齢者が多く殺される事件の方が多くあります。今福祉は少しずつ障害者福祉は前進しています。カッコ付きの前進。私の思ったのとは違った進み方です。何が進んでいるのかといえば、システムとテクノロジー化。システムは行政などが施設を作ったり、制度を作ったりしてそれは一方では良いことですが、一方では市民といった人々が参加できなくなったり障害者が管理されていく面があり、テクノロジー化というのは、機械化されていくことです。

これは私の二コマ目の講義で少し話します。まず皆さんに植松事件の話しをする前に質問があります。皆さんは昔に比べて昔と言っても比べて障害者は増えたと思いますか？

増えたと思った人は手を上げてください。

予想と反しますね。私の予想では皆さんは手を上げると思った。今の常識では医学と経済とか住宅関係の進歩で障害者は増えているというのが世間の捉え方です。

林先生) 確認しましょう。障害者が明治時代から減っていると思っている人は手を上げてください。増えている？わからない人。こんな感じです。

八木) 実は明治を境にして増えたのは健全者なんです。普通の人今の。明治の頃から少しずつ。どういうことかといえば、昔明治の頃とかは、病気とか

ケガとか災害とか人との争いで障害者ばかりだった。今の健全者とはいうか歩いて今の社会に多くいる普通の人（健全者）は明治以降に作られた人たち。

明治の前とか明治の頃とかは病気とかケガとか自然災害とか医学の発展としていないこととか貧しい人たちも多かったので障害者が多かった。ほとんど皆障害者だった。みなさん明治以降とその前は皆さんの歩き方も全然違っていたんです。何かというと、今は洋服だから足幅が広い。昔は明治以前は明治になってからも着物だった。それで一般の人とか今みたいな歩き方はしていなかった。どういう歩き方かといえば、皆さん陸上競技の競歩って知ってますか。ああいう歩き方をしていた。着物だから。今人口が減っているものの昔はお産が大変だった。医学が発展していないから、その頃は5人に1人がお産で死んでいたけども、もうちょっと進むと明治の終わりになると20人に1人死んでいた。生まれるときに。それで今は1000人に1人が1万人に1人がお産で死ぬということではあります。それで昔は圧倒的に障害者がほとんどだった。具体的にいえば、今は差別と言われている「ちんば」とか「びっこ」、「めくら」、「おし」聞こえない人のことです。そういった人たちが昔は繰り返し言うけども病気とか災害とか経済的に貧しくて障害者ばかりだった。それが今は色々進んだという健全者ばかりになった。今は身体障害者のことを言いましたけども精神とか知的もちょっといます。昔は教育が進んでいなかったから、明治の頃は今の小学校三年生程度が普通の社会人の程度だった。そろばんと字が読めるのはばっちりだったら寺子屋はあったけど学校はなかった。それが明治以降学校へ教育とか経済とか医学とか発展していった。障害者が少なくなったけど、重度障害者が増えてきた。増えてきたというのは誤解があるな。昔は生きていけなかった。何故生きていけなかったかという経済的に貧しかったし今で言えば重度障害者はその頃はあまりいなかった。しかし世の中は今で言えば軽度中度の身体障害者がほとんどだったとはいえ、重度障害者も少しいた。何かといえば経済的に貧しい一般の人は自分も食べていけない。貧しさ故に。障害者とわかると重度の障害をもって生まれてくるとわかると自分が生きていけないもので

殺したり幸せになってほしいと言うことで川に流した。桃太郎伝説もそれと関係あると思う。一番関係があるのは今は正月なので七福神。資料であると思います。イラストが。かわいいイラストだけど見てください。ただしこれ普通の人じゃないですよ。頭がでかくて。私の全国の昨年亡くなられた師匠でもある重度身体障害者の花田さんは一般の人たちは弁天このイラストには女性弁天以外は障害者だというけども、女の人この人です。かわいすぎるこのイラストわかりにくい。けども師匠の花田さんに言わすと、この人は両性類。男の性器と女の性器を 2 つ持っているんじゃないかなってという話し。それで重度障害者はその頃も昔も多少生きていた。なんでかいうたら経済的に裕福な家に時たま生まれたら、この子は皆の不幸を背負って生まれてきてくれたから家族や親兄弟親戚で育てなかつたらバチがあたる。今の施設はなくて親兄弟とか家族でその重度障害者を最初に育ててくれたというのが花田さんの論理と私の意見を加えた障害者像です昔と今の。そういった重要なことをネットでもない、わからないから学校でも教えない。これを教えないから植松被告のような優生思想をたっぷりと持った今の健全者が生まれてくる。優生思想と言えは能力主義とか効率主義とか隔離主義とかいうもので、そういったものを第一主義にしようとしている。植松が障害者を殺したのは重度障害者は生きている価値がない。生きている意味がない。という優生思想。二回目に話しますけど、優生思想第一主義で貫かれた殺人です。一方これは後から言いますけど、私と植松とは社会の見方とか人の見方とかあんまり代わっていない。ただ私は重度障害者の施設にいたので社会に出て、価値が分かった。これも二回目に話します。言葉だけいえば植松は優生思想第一主義。私は人を優先した人^{ひとゆうせんしゆぎ}優先主義（思想）です。この違いは私と植松の違いです。

次回へつづく。



◆今後の予定◆

このコーナーでは、基本的に文福や他団体の今後のお知らせを載せていきますので、チェックして、たくさんの方々にお越し頂ければと思います。よろしくお願ひします。

◎サンフォルテ 第2回 わくわく人生セミナー

「上野千鶴子氏 オンライン講演会 コロナ禍をどう生きるか？

～ジェンダーの視点から考える～」

日 時：3月21日（日）10：30～12：00

講 師：上野千鶴子氏

社会学者・東京大学名誉教授・認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）理事長

日本の女性活躍をリードしてきた上野千鶴子氏

「コロナ禍は私たちにとって非常時をもたらした。非常時には、
平時の矛盾が増幅してあらわれる。」

コロナ禍で見える化したジェンダーの課題を共有し、よりよく生きるためにできることを一緒に考えます。

会 場：富山県民共生センター「サンフォルテ」または自宅受講

（講演はオンラインで会場または自宅に配信されます）

募集定員：会場・自宅 各50名程度（申込先着順）

費 用：無料

申し込み方法・お問い合わせ：

サンフォルテホームページ、FAX、電話からお申込いただけます。

TEL（076）432-4500（祝日・月曜日休み）

オンライン配信はZoomを使用します



ありがとうコーナー



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今後よろしくお願ひします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今年、雪が良く降った冬でしたので、3月になるのが待ち遠しい気持ちでした。ようやく春が来る季節です。3月は、卒業式や職場では転勤、進学準備などがあります。忙しい月ですね。

しかし、今年、コロナ禍でいつもと違って送別会は、出来ないのではないかと思います。何か寂しいですね。

でも、来年は出来ると思って、今を乗り越えましょう。
〈アパッチ〉

いただきもの

川瀬さま(大家) 升谷 千春さま 坪田 佳奈さま

発行人：北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉312

編集人：特定非営利活動法人 ぶんぶく 文福

〒930-0887 富山市五福3734-3
e-mail:bunpuku@arrow.ocn.ne.jp
HP: <http://bunpuku.org/>

TEL/FAX (076) 441-6106

定価 50円

※文福の会員の方は、会費に購読料を含んでいます。